

●空き巣

お元気でいらっしゃいますか？

実は、先週、皆さんにメルマガを送らせていただこうと思っていた矢先、ハンブルクの我が家に空き巣が入り、パソコンなどが盗まれてしまいました。

私は、1993年から、ハンブルクの築150年の一軒家の3階の部屋を借りて住んでいます。第二次世界大戦で、通りの半分が被災し、半分は残りました。私の住んでいるところも無事だった家で、近所の家々も、同じような頃に建てられた、古くて大きな一軒家です。最近、近くの家々で空き巣の被害が発生していることは耳にしていたのですが、家のカギがとても頑丈なこの家に空き巣が入るなど、考えたこともありませんでした。



そのような中、1月21日の夜、大家さんのご主人はテニス、奥さんは友人と食事に、2階に住んでいる大家さんの息子さんは中国語講座、私は教会の祈祷会に出かけました。家にだれもいなかった時間は、約2時間半です。最後に家を出たのは私なのですが、その時、外灯と一階の廊下の電気をわざわざ点けて出ました。それなのに、泥棒は、家に誰もいないのが分かったようで、裏口に回り、一階のベランダのドアを機材でこじ開けて入りました。普段大家さんは、出かけるときは、ベランダの外側の頑丈な電動シャッターを下すようにしていますが、この日に限って、そのまま出かけてしまったのだそうです。そして、一階の大家さん宅から宝石類、重要書類、カメラ、2階の息子さんのパソコン、3階の私の部屋からは、パソコン、カメラ、カードケースなどが盗られました。

カードケースは、普段は分らないところにしまってあるのに、たまたまオンラインバンキングの支払いのために取り出し、数日、机の引き出しに入れたままにしていました。そのことを悔やみましたが、盗まれてから気付いても後の祭りです。とにかく、すぐにクレジットカード会社や銀行に連絡して止めてもらいました。



夜中の12時すぎ、電話での必要手続きを終え、居間のソファに座って少し落ちついた時、「主よ、みことばをください」と祈りました。

するとすぐに、「主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。」
(詩篇23編1節)が心に響いてきました。

そして、「立ち返って静かにすれば、あなたがたは救われ、落ち着いて、信頼すれば、あなたがたは力を得る。」(イザヤ30:15)

「すべての事について、感謝しなさい。」(1テサロニケ5:18)

などのみことばが、平安とともに次々に心に響いてきました。どのような時にも、主がともにいてくださる者の幸いを、そしてこのようなことにも感謝できる幸いを、深く感じたひとときでした。

翌朝、警察が現場検証に来ました。午後から銀行でカードの再発行の手続きをし、その足で、パソコンを買いに行きました。その前に、ドイツの銀行口座を調べると、パソコンを買うだけの十分な金額がなかったのと、クレジットカードも使えない状態だったので、一瞬どうしようと思ったのですが、12月の日本の最後の3つのコンサートの謝礼を封筒に入れてドイツに持ってきたことに気づき、それをユーロに換金してパソコンを買うことができました。

パソコンにあまり詳しくない私は、祈りつつ、メディア・ショップへ行きました。そうしましたら、店員さんがとても親切に対応、説明してくれ、日本語環境に変換できる Ultimate というエディションがあること、また、もし Windows Office 2007 のソフトを持っているなら、それらのソフトが付いていないパソコンが安上がりであることなどを説明してくれ、思っていたより安価に購入することができました。

ちなみに、Ultimate ですと、さまざまな言語環境に変換することができるので、ちょっとした感動を覚えました。ただし、ドイツで購入する Ultimate の中には日本語は入っていませんので、Windows Japanese を無料でダウンロードして追加すれば OK です。こちらにお住いの方で、日本語パソコンを購入されたい方にはお勧めです。

そのようなわけで、盗難の翌日にはメール通信が可能になりました。今まだ、いろいろなソフトの再インストールや、データ入力作業が続いていますが、焦らず慌らず、主の導きの中でやっていこうと思っています。

日本も盗難が多くなってきましたが、ドイツの盗難犯罪件数は、日本をはるかに上回っています。特に、今、ヨーロッパ各地で、南米などの貧困国からの出稼ぎ移民の一部が、集団で盗難をしているそうです。もちろん、今回の空き巣が外国人だとは限りませんが、南米の困窮状態を思いました。これが、昨年、支援チャリティー・コンサートをさせていただいたミャンマーの場合では、彼らの多くは、ヨーロッパまで出稼ぎに来るお金さえもないのだと、世界各地の貧困問題に思いをめぐらせました。



同時に、「主は私の羊飼い。私は、乏しいことがありません。」と私たちが告白する主を知らない人々の、霊的困窮を思いました。一日に小さな水がめ一杯の水と少量の食物しか得られず、でもそれを、「これが今日、主が私たちに与えてくださった分です。ですから、私たちはそれを感謝させていただいています」と告白する避難キャンプのクリスチャンご夫婦もいれば、その状況に苦しみ、盗みに至る人もいます。

主が共におられる人の幸いと、主を知らない人の苦しみは、その歩みを重ねるごとに、それぞれ両極端の方向へと進んでゆきます。一方は天国へ至る道であり、もう一方は地獄に向かう道だからです。

けれども、神がご自分の御子をお与えになったほどに世を愛しておられるなら、そして、誰よりも主ご自身が、罪の縄目に囚われている人々の生き方を見て、心張り裂けるほど悲しみ苦しんでおられるのなら、悪を行う人を簡単に裁いてしまう前に、まず神の視点に立たせていただいて、人々の救いのために、もっと真剣に祈らなければならないと思いました。わが家に空き巣に入った人（たち）にも、神の救いがもたらされますようにと、今、心から祈っています。

日本では、インフルエンザが大流行していると聞きました。

こちらでも、胃腸をやられるウィルス性の感冒が流行っています。今のところ、私は元気にはしていますが、うがい、手洗いなど、できる限り、予防に徹してゆこうと思っています。皆様も、健康にはくれぐれもご留意ください。

主の守りと祝福を、心からお祈りしています。

工藤篤子

●お知らせ

「工藤篤子と行くヨルダン・イスラエル賛美の旅」は、今月も引き続き参加申し込みを受け付けています。詳しいことをご存知になりたい方、参加を申し込まれる方は、事務局にお問い合わせください。皆様のご参加を、心よりお待ちしております！

日時：2009年2月24日(火)～3月6日(金)

定員：25人

費用：368,000円（付加燃費と出国税は含みません。）